

平成28年度第1回新潟市男女平等教育推進研究会概要

1 日 時 平成28年7月19日(火) 15:00～16:30

2 場 所 新潟市白山浦庁舎2号棟402会議室

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

相庭 和彦	新潟大学教育学部 教授
嵐田 浩二	新潟市立白根北中学校 教諭
岩崎 正法	新潟市立坂井輪中学校 教諭
串田とよ子	新潟市立桃山小学校 校長
熊倉 史記	新潟市立巻北小学校 教諭
佐藤 裕	新潟市立横越中学校 校長
真田 裕子	市民生活部男女平等参画 課長
須佐 一彦	新潟市立白根小学校 校長
竹之内佳子	新潟市立金津中学校 校長
樋口 玲子	にいがた女性会議 委員
松榮 尚樹	新潟市立竹尾小学校 教諭

(2) 事務局

保科賢一郎	学校支援課課長補佐
上澤田 誠	学校支援課総括指導主事
山田里恵子	学校支援課指導主事

4 会議内容

(1) あいさつ

会長

子どもたちが一人一人の自己実現を目指すために、正しいことや間違っていることに気付かせ、自分でしっかり判断できるような社会を形成していくことが大切である。学校教育の中で、社会に存在する不条理な現象を疑い、直すために何をすることが必要か問いをもつような男女平等教育を行うことが大切である。この研究会は男女平等教育の第一線で活躍する方々の集まりだと聞いています。今日はよろしくお願ひします。

(2) 児童生徒用「学習資料」について

「学習資料」については、昨年度の男女平等教育推進研究会で、委員の皆様から御検討いただきました。皆様の御意見をもとに、平成28年度版を作成し、各学校に配信しました。今年度は、データで送付しました。小学校3年生、6年生、中学校2年

生だけでなく、各学校の年間指導計画に合わせ、必要な学年が使用することが可能となりました。大きく資料を提示するなどデータ配信ならではの使い方をしていただけることを期待しています。

一番大きな変更点は、中学校2年生用の資料です。「どう考えますか?」「えっなぜなんだろう?」では、具体的な資料を比較し、気付いたことを書き込んだり、話し合ったりできるように修正しました。

さらに、「実践」では、自分の考えを振り返り、学校や家庭、地域・社会で、できるところから行動に移せるよう、意識付けを行うことができるようにしました。

資料に載せるデータを再確認し、より正確なデータを掲載しました。

新潟市の男女共同参画に関する施策としては、平成23年度から27年度まで「第2次新潟市男女共同参画行動計画」に沿って、男女平等教育を推進してきました。

平成28年度から、第3次新潟市男女共同参画行動計画が策定され、平成32年度まで5年間の計画で進められます。今年度は初年度です。資料6にある、目標・具体的取組、指標に沿って、学校教育における男女平等教育が推進されています。指標の達成には向け、各学校に積極的に働き掛けていきます。

本日の協議の中で、学習資料の活用状況等について学校現場の様子を報告していただき、改善に向けてどのような取組ができるかについてご意見をお願いします。

(3) 協議

◇昨年度研究会を行い、全体で取り組むことができ、男女平等についての意識が変わった。CDでの配付はしっかりと広報をしないとCD自体が見あたらなくなる。冊子の方が取組についての意欲付けとなる。

◇CDでの配付は、効果的な面があるが、埋もれがちになる。担当にしっかりと意識付けていき、活用につなげなくてはならない。

(4) 事務局報告

資料2は、「学習資料」を学校に送付したときに一緒に送った文書です。「第3次新潟市男女共同参画行動計画」の指標についても触れました。資料3「別紙資料」については、活用の参考となるように、今後送る予定です。

資料4は、平成27年度の男女平等教育学習資料活用状況です。学習資料を活用している学校の割合は、小学校は100%でした。中学校では、「第2次新潟市男女共同参画行動計画」の指標までもう少しというところまでできていますので、資料3を送ることで、活用の促進をより図りたいと考えています。調査において、「活用している」と回答している学校がほとんどですが、委員の皆様から、学校現場で実際にどのように活用されているかについてご報告ください。

年間指導計画に位置づけて指導している学校については、小学校中学校ともに前年度より下がっています。

保護者への啓発や情報提供については、中学校では伸びているものの小学校では前年より下がっています。男女平等教育以外にも指導すべき内容が増えていること等が

原因として考えられます。引き続き男女平等教育の大切さについて働き掛ける必要があります。

(5) 協議

◇道徳の指導計画に位置付けることが大切である。「子どもの権利条約」と「生きる」も欄を設け、そこに「男女平等教育」を位置付けた。CD配付だからこそ、指導計画に位置付けるべきである。

◇総合的な学習で「キャリア教育」に位置付け、職業観に焦点を当て、男女平等教育を行った。今後「男女の生き方」で活用する予定だ。

◇男女平等教育は、授業で取り上げるとしたら、道徳や特別活動であるが、道徳やキャリア教育だけでなく、全ての教科の根底にある。年間指導計画の中でしっかりと位置付けることが大切である。

◇保護者への啓発をもっと充実させるには、集会等で学習資料を手にとって見る機会があると効果的である。日々、男女平等を感じる場面が多いが、職業も多種多様であるし、男性女性の役割が昔と変わってきている。PTAの場での男女平等教育は難しいが、よいアピールの場である。

(6) 男女平等教育推進に関する意見交換

◇デートDVの問題であるが、中学生や高校性からすでに存在している。三重県の教育委員会でビデオを作成している。

◇相手に対する束縛という観点から言うと、スマホのやり取りで即返さない、自分以外の友達と仲良くすると嫌がられるといったことは、中学生でも日常にある。次の段階で暴力などの被害につながる可能性がある。

◇高校生や大学生になってからでは遅い場合がある。守る、守られるといった関係ではなく、成長する中で、支配する、支配されるという上下関係が生まれてくる。その子のもっている家族観、恋愛観がある。人間関係がずれているということを正しく判断できるようになるために、小学校中学校から男女平等教育について学ぶことができる学習資料が必要である。

(7) 閉会のあいさつ

以上で第1回新潟市男女平等教育推進研究会を終わります。今日はたいへんありがとうございました。